

かみさま

roukasyoujo

(ねえかみさまおねがって、おねがって、言ってるだけなんです)

バス停にいるあの子はいつも傷だらけで痛々しくてそれでもわらうんです。

(目をつむって)

僕のつまらない話にもわらいかけてくれるんです。

いつもお祈りしていました。

だから何の神様なのって聞きました。

それでも、かみさまはかみさまだよって言ってまたわらうんです。

穴のあいた天井ばかりみていると言っていました。

いつも雨が降ると言っていました。

「かみさまのこどもをさがしているの」

遺書みたいな言葉をのこしてあの子は消えてしまいました。